

■開高健 洋酒の壽屋の宣伝から始まり、ベトナム戦争体験に至るまで行動し続けた小説家。趣味の釣りの書でも知られる。

かいこうたけし

海軍軍縮条約1930＝ 大阪市天毒寺区東平野町で、開高弥作の娘文子と婿養子の福井出身の小学校教師正義の長男に生まれる。

満州事変・・・1931＝ 1歳：生後11カ月で腸炎に罹るが、奇跡的に助かる(リンゲル注射8本目で回復したという)。

五一五事件・1932＝ 2歳：妹陽子が誕生。

帝人疑獄事件1934＝ 4歳：祖母北川寿起(父の母)が福井で死去。妹順子が誕生。

日中戦争始・1937＝ 7歳：大阪市立東平野小学校に入学。隠居した祖父のため、一家は同市住吉区北田辺町へ転居し、

第二次大戦始1939＝ 9歳：大阪市立北田辺小学校3年生へ転入学。出席状況もよく学業精励で、優等生をとおした。

日米開戦・・・1941＝11歳：

創価学会検挙1943＝13歳：卒業。「操行善良学力優等」で賞を受け、総代として答辞を読んだ。大阪府立天王寺中学校に入学後、父が腸チフスを誤診され死去し家督相続。成績極めて良好、体操班に所属。読書をよくし、優等賞を受ける。

年金+総武装 1944＝14歳：太平洋戦争激化で授業が停止、上級生は学徒動員され、教室は兵営に代用された。

敗戦・・・・・・1945＝15歳：各地へ勤労働員されるうち終戦。授業再開。家計を助けるため、様々なアルバイト生活が始まる。

極東裁判決・1948＝18歳：卒業。旧制大阪高校(翌年、学制改革で新制大阪大学教養部に合併)文科甲類に入学。一時学生寮で生活。

三大事件・・・1949＝19歳：大阪市立大学法文学部を受験し合格、文芸部に入学。(臥龍)に「鈴木亨君」を発表。

朝鮮戦争始・1950＝20歳：森下辰夫のフランス語塾に通い、谷沢永一と会う。谷沢宅で開かれた同人雑誌{えんぴつ}の同人となり、合評会で7つ年上の{寿屋}研究所社員牧羊子(本名金城初子)に出会う。

独立回復・・・1951＝21歳：初の長篇習作「あかてみあめらんこりあ」を発表まもなく{えんぴつ}は終刊。

メデー事件・ 1952＝22歳：旧住吉区杉本町の牧羊子の家に同棲まもなく、長女道子が誕生。帝王切開を受けた羊子は輸血で慢性肝炎に罹る。創刊された富士正晴らの雑誌(VILLON)の同人になるとともに、_諸誌に作品を発表し始め、

テレビ放送始・1953＝23歳：法学部法学科を卒業。結婚した牧羊子が持ち込んだ文案を_{寿屋}専務の佐治敏三から評価されて、

自衛隊発足・1954＝24歳：牧羊子の退社と入れ替りて、_{寿屋(サントリー)}に入社。宣伝部に配属。{寿屋}労組委員長から請われて教宣委員となり、機関紙{スクラム}編集長として健筆を振るうも、

55年体制始・1955＝25歳：安部公房、島尾敏雄らの{現在の会}に牧羊子と参加。小売店向け販売促進誌{発展}の編集など、_業務等多忙のため辞任。ともに入社した柳原良平と組んで、「トリスウイスキー」の広告制作の担当となり、取材のため全国の都市へ出張。役員会議でPR誌{洋酒天国}の企画がうけいられ、

国連加盟・・・1956＝26歳：東京支店に転勤となり、杉並区向井町の社宅に転居。_創刊された{洋酒天国}の編集兼発行人となり、事実上は23号から編集が山口瞳になるも、終刊の61号まで編集長。多忙のなか、諸誌に作品の発表を続け、

なべ底不況・1957＝27歳：朝日新聞の宇田川竜男「木曾谷ネズミ騒動記」を読み、_小説「パニック」を発表、毎日新聞の文芸時評で平野謙に激賞される。{文藝界}に「裸の王様」を発表し、

インスタントメン・1958＝28歳：祖父弥作が死去。*芥川賞を受賞。新日本文学会に入学。早稲田大学で、大江健三郎、遠藤周作、山本健吉、吉田健一と並んで講演。{寿屋}を退社し嘱託となる。前年に発表の「巨人と玩具」は映画化。江藤淳らと{若い日本の会}を結成し、村松剛らの復刊した{批評}の同人となる。

美智子妃・・・1959＝29歳：社宅を出て、同区矢頭町に転居。「屋根裏の独白」「過去と未来の国々」。牧羊子旧知の詩人金時鐘の案内で、生野区猪飼野方面に取材した「日本三文オペラ」を{文藝界}に連載。過労のため急性炎を発症し寝込む。宣伝活動が評価され、{壽屋}が毎日産業デザイン賞。新日本文学会主催の安保改定反対の夕で講演。「ロビンソンの末裔」。中央公論社「チェーホフ全集」の月報の原稿依頼をうけ、同全集の編集に関わっていた佐々木千世子を知る。国会で安保の特別委員会を傍聴。諸誌に連載を続けながら、_中国訪問日本文学代表団の一員として中国を訪れ、毛沢東、周恩来、郭沫若らと会見。チェコスロヴァキア作家同盟、ポーランド文化省の招待を受け、アウシュビッツ博物館も見学。パリを経て帰国。

タイタイ病始・1961＝31歳：劇団葦が「日本三文オペラ」上演。「過去と未来の国々」。アジア・アフリカ作家会議東京大会のために奔走。_アイヒマン裁判の傍聴にエルサレムに赴き、ソビエト作家同盟の招きでモスクワ、レニングラードなど訪問してエレンブルグと会見。パリで反右翼抗議デモに参加し、大江健三郎、田中良と共にサルトルと会見、会見記に「老齢と激務の無残な傷跡に蔽われた初老の小男」と書く。

全国総合計画1962＝32歳：「声の狩人」。「岩波文化講演会」のため有沢広巳と新潟、長野、松本市へ赴く。第1回アジア・アフリカ講座の講師を務める。_サントリービール発売準備のため佐治敏三らと北欧、西ドイツの有名醸造地を歴訪。

TV宇宙中継始1963＝33歳：「日本人の遊び場」。「アジア・アフリカ作家会議の執行委員会に出席のためジャカルタへ赴き、バリ島で開催された会議に出席するなど、世界が飛躍的に拡大したため、サントリーの嘱託を退職し、

東京テレビタ 1964＝34歳：「見た揺れた笑われた」「ざばり東京昭和著聞集 上・下」。佐治敏三を会長に、_広告制作会社サン・アド設立すると、朝日新聞社臨時海外移動特派員として、カメラマンの秋元啓一と共に戦火のベトナムへ「従軍」。

大学紛争始・1965＝35歳：「片隅の迷路」による山本薩夫監督の映画「証人の椅子」封切。*南ベトナムで従軍取材中、ベトナムに包囲され救援部隊の援護で死地を逃れる。朝日新聞紙上で、「一時行方不明」と報じられ、帰国第一声は「幽霊ではないで...」。{週刊朝日}の連載の「南ヴェトナム報告」に手を入れ、「ベトナム戦記」を完成。衆議院外務委員会で特別参考人としてベトナム問題を説明。「ベトナムに平和を!市民連合」の呼びかけ人となり、{ニューヨーク・タイムズ}にベトナム戦争反対の意見広告を載せる提案をし掲載、

いざなぎ景気1966＝36歳：小田実らと_サルトル、ボーヴォワールを迎え「ベトナム戦争と平和の原理」集会を開催。

美濃部都知事1967＝37歳：小松左京らと_ジョーン・バエズを囲む会「みんなでベトナム反戦を!」に参加。

霞ヶ関ビル・ 1968＝38歳：「サントリー七十年史」を山口瞳と分担して執筆に着手。_書下し「輝ける闇」により毎日出版文化賞を受け、文藝春秋の臨時特派員として、騒乱のパリ(いわゆる「五月革命」)を取材し、サイゴンを経て帰国するなどする一方、趣味の「私の釣魚大全」のための釣の旅を北海道から徳之島まで続け、

全共闘バーク・1969＝39歳：_朝日新聞臨時海外特派員として「フィッシュ・オン」の旅に出、アラスカからヨーロッパ、北アフリカなどをめぐり、途中ピアフ戦争、中東戦争を「観察」し帰国するなど、

大阪万博・・・1970＝40歳：創刊された季刊「人間として」の編集同人になり、交通事故死した旧知の佐々木千世子の葬儀の世話をし、弔辞を読む。_活動が過剰になり、思い立って新潟県北魚沼郡湯之谷村銀山平に籠る。

日中国交回復1972＝42歳：出版社を通して「夏の闇」が文部大臣賞を打診され辞退。_以後連年のように、諸誌に連載、単行本を出版、石油ショック1973＝43歳：{文藝春秋}{週刊朝日}特派員として_ベトナムの和平調印を取材。

角栄金脈辞任1974＝44歳：茅ヶ崎市東海岸南に移住。_テレビ出演、「四畳半襖の下張」裁判に弁護側証人として出廷証言し、大阪の今橋画廊で山崎隆夫と「路上の逢逢」展を開催するなど多方面に活動しつつ、

クランブル事件1975＝45歳：サイゴンが陥落しベトナム戦争終結。胆石除去の手術を受ける。

JALハイジャック・1977＝47歳：同志4人と、アマゾン流域、パンタナロを巡る「オーバの旅」など、_釣りで世界を旅しながら、

成田衝突・・・1978＝48歳：_芥川賞選考委員となり、大宅壮一ノフィクション賞、{文藝界}新人賞、{新潮}新人賞等の選考委員も引き受け、「これぞ、開高健」が刊行されるに至る。この年フィンランドで訳「夏の闇」が文部大臣賞。

革新大敗北・1979＝49歳：朝日新聞社の記者・カメラマン同行で、南北アメリカ両大陸縦断冒険旅行。_佐治敏三に提案して(サントリー文化財団)が設立され、ともに理事に就任した山崎正和と提案して、創設されたサントリー学芸賞の選考委員に就任。「玉、砕ける」で川端康成賞を受賞。

貿易摩擦問題1980＝50歳：出演したテレビCM「サントリーオールード」がテレビ広告電通賞、フジサンケイグループ広告大賞。

・・・・・・1981＝51歳：「ベトナム戦記」はじめルポルタージュ文学で菊池寛賞。

中曽根内閣・1982＝52歳：バック・ペイン(背中痛み)で水泳教室に。「オーバ、オーパ!!」取材のためベーリング海へオヒョウ釣の旅。谷澤永一、向井敏、浦西和彦編「コレクション開高健」、「開高健全対話集成」全8巻が刊行される。

ドイツランド 1983＝53歳：カリフォルニアからカナダへ、チョウザメ釣旅行。_アラスカでキング・サーモンを釣り、カリブーのハンティングを体験。翌年、中米コスタリカ釣魚の旅、

・・・・・・1984＝54歳：サントリー傘下のTBSブリタニカの編集顧問に就任し総指揮。フィンランドでの世界文学祭に出席し講演。

ジャンボ機墜落1985＝55歳：前年来総指揮してきた(ニューズウィーク日本版)が創刊され、順調な滑り出し。スリランカ、モンゴル、翌年には、キャビア試食のため欧米旅行し、いずれもテレビ放映。

竹下内閣・・・1987＝57歳：「耳の物語」で日本文学大賞文芸賞。ドナルド・ホール編「ToReadFiction」に「玉、砕ける」が収録された。

リクルート事件・1988＝58歳：元首相ヒュームの招待で、スコットランドで鱒釣りも釣果なし。長良川河口堰に反対する会会長に就任。昭和天皇没・1989＝59歳：葬儀に参列した折に胸の異常をつよく感じ、昼食が喉を通らなくなり、_扁平上皮がんと診断され、手術を受け、リハビリに専念しながら執筆をつづけるが、再入院。肺炎を併発して没した。

小玉武「評伝 開高健～生きた、書いた、ぶつかった!～」